

地域医療部

～地域社会の包括的な医療を推進し、
地域の人々の幸せに貢献する～

琉球大学医学部附属病院地域医療部 武村 克哉（10期生）

「地域医療部は何をしているのですか？」

私が自己紹介するといつも聞かれる質問です。そこで、地域医療部の歴史を紐解きながら、地域医療部のこれまでの活動と、現在の取り組みを紹介したいと思います。

地域医療部は、医学部が出来る前の1972年に、保健学部附属病院地域医療部として、地域社会の包括的な医療を推進することを目的に設立されました。初代鈴木淳教授、2代目鈴木信教授が専任部長として在籍されていましたが、地域医療研究センター設立に伴い、鈴木信教授は同センター教授となり、地域医療部の部長は併任の形となりました。以後、3代目小椋力教授、4代目澤口昭一教授、5代目近藤毅教授、6代目村山貞之教授、7代目大屋祐輔教授、8代目上里博教授、そして現在9代目の新崎章教授が部長を併任されています。

初期の地域医療部では、離島医療研究、百歳健診など長寿研究で数多くの実績を残しています。1997年に稲福徹也先生（2000年に退職、2005年に再赴任、2009年より稲福内科医院院長）、2000年に武田裕子先生（現順天堂大学医学教育室教授）が専任の教員として地域医療部に赴任され、総合診療（1999年総合診療センター発足）および地域医療／プライマリ・ケア教育研修を地域医療部が行うようになりました。2004年より地域医療連携業務を開始、2007年に医療福祉支援センターが発足しました。私は2009年に地域医療部に赴任し、武田先生、稲福先生の活動を引き継いでいます。

現在、地域医療部は、「地域における保健・医療・福祉システムの研究および質の高い医療人の育成を通して、地域の人々の幸せに貢献する」の理念の下、各関係部署・機関と連携し、総合診療センターでの外来診療、地域医療／プライマリ・ケア教育研修、臨床倫理教育および相談、臨床研修指導医養成、沖縄県委託事業である健康行動実践モデル実証事業（ゆい

健康プロジェクト）などに携わっています。今年度は重点活動目標として、地域包括ケア支援に向けた取り組み、総合診療専門医の養成プログラム作成を掲げ、地域包括ケアの院内勉強会を開始し、2017年から始まる新専門医制度での総合診療専門研修プログラムの作成に取り組んでいます。地域医療部の活動は、いずれも琉大病院内の他部署、地域の関係機関との連携協力なくしては成り立ちません。皆様、今後ともご支援の程、どうぞよろしくお願いいたします。

地域医療部には新崎部長以下、私の他に、地域医療部在籍30年弱、地域医療部を陰日向で支えている瑞慶覧、臨床倫理コンサルタントの金城、事務の宮平、中曽根（主にハワイ沖縄医学教育フェローシップを担当）、医療福祉支援センターに出向している石郷岡（医療ソーシャルワーカー）がおります。身内ながら、まさに少数精鋭のメンバーと自負しています。

地域医療部はインキュベーション組織とおっしゃった先生がいました。今後も地域医療部に求められている役割をしっかりと果たしながら、地域のニーズに応える人材、組織を生み出していけるよう、スタッフ一同日々精進していきたいと思っています。

